

会 議 録

会議の名称	令和 7 年度第 1 回戸田市中心企業振興会議
開催日時	令和 7 年 6 月 3 日（火） 午後 1 時 3 0 分～午後 3 時
開催場所	戸田市役所 5 階 5 0 1 会議室
会長氏名	結城 剛志
出席者氏名 （委員）	徳永光昭、富岡聡子、丹野一城、黒井英樹、高橋一能、安田裕美、 松浦睦子、渡邊祐、今井祐之 廣瀬倫理（オンライン）
欠席者氏名 （委員）	土肥 悦子、金子 秀一
説明のため出席した者	なし
事務局	香林部長、清水室長、長谷川課長、高橋副主幹、片桐主任、荒生主事
議題	【議題 1】戸田市経済戦略プランにおける令和 6 年度の実績確認 【議題 2】第 2 次経済戦略プラン策定に向けた現状把握と課題 第 2 次プラン策定スケジュール（リマインド） 「企業経営状況調査」の結果報告 第 2 次プラン（案）の骨子及び現状と課題 【議題 3】第 2 次経済戦略プラン（案）の基本方針と施策 【その他】
会議結果	会議録のとおり
会議の経過	会議録のとおり
会議資料	別紙のとおり
その他	傍聴人なし
議事録確定	令和 7 年 7 月 4 日
発言者 事務局	発言内容 開会あいさつ 配布資料（6 点） 1）令和 7 年度第 1 回戸田市中心企業振興会議資料 2）【2021 年度～2025 年度】経済戦略プラン 3）戸田市企業経営状況調査報告書（令和 6 年度実施） 4）第 2 次経済戦略プラン骨子案（新旧） 5）第 2 次経済戦略プラン素案 6）第 7 期戸田市中心企業振興会議委員名簿 （＊委員出席状況について報告） 本日、廣瀬委員はオンラインの参加となる。 委員 13 名のうち欠席が 2 名で、11 名の出席となっているため、戸田市中心企業振興会議規則第 5 条第 3 項で定める半数以上の出席であり、会議は成立することをご報告する。 それでは本日の進行の流れに従って、進めさせていただく。 ここからの進行は、戸田市中心企業振興会議規則第 5 条第 2 項の規定により、結城会長にお願いする。

会長	それでは、次第に基づいて議事を進めさせていただきます。 議題 1 戸田市経済戦略プランにおける令和 6 年度の実績確認について、事務局から説明をお願いします。
事務局	事務局より説明
	【議題 1】戸田市経済戦略プランにおける令和 6 年度の実績確認 「柱 企業の魅力や価値を高める」「柱 多様な人材による産業振興」 「柱 地域社会をつなぐ」については、質問・意見なし 「柱 社会的責任の遂行」について質問等あるか
会長	
委員	施策39の事業承継問題のサポートであるが、個別相談等セミナーの実績12件の参加人数はどれほどであったか。セミナーの開催回数と個別相談会の相談人数も知りたい。
事務局	事務局の方で現時点では把握をしていないため、商工会にも確認を取り、後日回答する（後日、商工会に確認した結果、個別相談会の実施回数:年間計12回、相談事業者数:延べ17事業所）。
委員	件数ではなく、どれほどの人が来たのかということで認知度も測れ、戸田市はこういった取り組みをしているということの浸透度が分かると思うため、その点は非常に重要であると思う。ふるさと納税の件数は確認できたが、今までの発表の中で数値的データに少し偏りがあり、目標の寄付金額に対して達成度が抜けているため、分かりにくい報告であると感じる。
会長	今の件に関しての回答はどのようなかたちになるか。
事務局	事業承継の参加人数や確認はメールで共有する。また、その後のアウトプット指標の部分に関しては次期プランの中でまた検討していきたい。
会長	その他何かあるか。全体を振り返り、やはり柱 の中で質問があるということであれば、戻って質問していただいてもよい。 特になければ、議題 2 第 2 次経済戦略プラン策定に向けた現状と課題について、事務局から説明をお願いします。
事務局	事務局より説明（議題 2 について、分けて説明を行った。） 【議題 2】 第 2 次経済戦略プラン策定に向けた現状把握と課題 第 2 次プラン策定スケジュール（リマインド） 「企業経営状況調査」の結果報告
会長	質問等あるか。 全体的な傾向としては、人手不足・人材確保で困っているということがアンケート結果からわかる。 業種別に見ると、技術職に関して不足していると答えている事業者がかなり際立っているということのようである。

委員

資料を見ると、このアンケートに興味がない人が多いと感じた。会長の発言のとおり、人材の問題ということはもう少し深掘りする必要があると思う。そして、先日市長に提言書を出した時も、首をかしげる部分が何点かあった。コンサルティング会社等に、雇用する者の年収の35%の費用を支払い採用活動を行うということも確かにあると思うのであるが、実際には、それができない会社が多くあるのである。先ほどの「求人してもなかなか良い人材が来ない」、「ミスマッチが起きる」ということは確かにあるが、そうではないケースも多数ある。であるからまだまだ行う価値があるというところで、「人材確保」と「定着」というキーワードは、このアンケートを見ても絶対に欠かせないと思ったところである。

一方で、事業承継の話について、このアンケートにもあったように、自分の代でもう廃業することを考えている事業者が50%いるということは、この事業承継の部分を、もう少し違う形で見ていく必要があるのではないかと思う。そして一方で、戸田市の中で法人がなくなっていくというのはマイナスでしかないと思うため、この辺りを踏まえ深掘りする必要があるのではないかと思ったところである。企業は大小あるとは思うが。以上である。

委員

クロス分析をしてはいないと思うが、アンケート結果の中で気になった部分として、問7「貴社の代表者の年齢をお答えください」で「50～59歳」、「60～69歳」の割合が65%もあることに対し、自分の代で廃業を考えているというのが50%ほどであるという、そのアンバランスな部分が非常に気になっている。

この結果であるということは、年齢だけではなく、この戸田市を取りまいていく経済環境というものが、自分の代で年が若くともあきらめてしまうという状況を生みだしている可能性があるのではないかと読み取れる。その部分をアンケート結果の中でクロスさせ、分析を深めていく必要があるのではないかと、いうところが気になる部分である。

そして施策の部分であるが、戸田市に求めるものは何かと問われたときに、「特にない」といった回答が非常に多かったということである。これは戸田市がさまざま手を尽くして行っている施策が、事業者まで届いていないという状況を示唆しているのではないかと、いうことが、少し気になっているところである。

会長

次回のプラン改定の参考にしたいのであるが、委員から指摘のあった45番の問であるが、戸田市が実施している支援で有効なものが特にないということについて、これはどう解釈したらよいのかということであるが、戸田市が提供している事業のメニューとしては、地方公共団体としては非常に広い・多いメニューをそろえているかと思うのであるが、事業者の皆に対してピントが合っているのか、必要な支援を提供できているのかという部分も検証する必要があるのではないかと、いう風に感じている。

何か皆が感じていることやアドバイス等あればうれしい。

委員 戸田市商工会の青年部に、ここ2年で30人前後の事業主が入会した。戸田で起業した人がこんなにも多いのだと正直驚いていたが、もちろん事業継承する者もいるが、なぜか戸田で事業を始めた、戸田を良くしようと思ったという話を昨年から聞く中で、こういった戸田市が行っている施策が届いていないと思っている。例として、私も役所等と関わることが多いため、活用できる補助金を把握でき、分からないことは質問等行えるが、気軽に相談してもよいのか、どこに行けば気軽に相談できるのか等を商工会員ですら理解していない部分があるため、活用できる補助金等を、先に話があったようにピントを合わせ周知できるとよいのではないかと。 「特にない」という回答を寂しく思う。こういったことであれば可能であるといったことを、気軽に相談ができる体制の構築やSNSを活用し発信できるとよいのではないかと。

会長 何か事務局から回答はあるか。
先日の提言書提出式はSNSで発表すると話があったが、戸田市のメーリングリストとSNSと広報紙が主なコミュニケーションツールであるか。

事務局 ホームページは当然のことであるが、メールマガジンや戸田市であるとLINE等も経済戦略室から発信が行えるため、そういったところから発信を行っていることや、今年度に関しては商工会の商業、工業の代表部会議等でも市の施策として発表を行っている。一方で情報周知というところは課題として認識をしているため、機会を通じてその都度紹介をしたいと考えている。

委員 人材確保や事業承継と比べると比較的重要度が下がると考えるが、調査報告書のSDGsの取り組みの部分について、先の資料の経済戦略プランの進捗管理表の38にもあったが、登録者数が下方傾向であることと、調査の結果を見ても「特に取り組んでいない」や「効果がない、見込まれない」という結果がかなり大きく出ている中で、戸田市としてはSDGsの支援を今後も続けていくのか、拡大していく方針であるのかを確認したい。

事務局 SDGsパートナーの制度に関しては戸田市独自で作成したものであるため、作成した当初が一番伸びてくるところがある。また、その後の数を増やす取り組みは商工会と連携し、SDGs動画の作成が行えるという補助や、商工祭の際にSDGsカードの紹介等を使いながら増やしていきたいと考えている。今年度も引き続き実施予定である。

会長 SDGs支援については、もう一声欲しいところである。もう少しアピールできる方法があると積極的に応募したくなるのではないかと。先に委員からクロス集計の話があったかと思うが、今回アンケート項目の作成はどのように行ったのであるか。個別のアンケート項目をどう解釈するのか、アンケートは取った後どのように評価するのかということまで考えて作成すべきであると思うため、その点の考えがあれば聞かせてほしい。
そして、今後の工夫として、価格転嫁の項目で原材料費と仕入価格高騰の価格転嫁の質問があったが、人件費、労務費に関しては全体を通じて質問がないように思ったため、回答する事業者がどのように切り分けているかわからないが、その辺りまで踏み込んで質問できるとよいと思う。

事務局 今回のアンケートの項目は事務局中心に考えており、会長の発言のとおり人件費の部分の項目等が抜けていたため、全てが把握できるものではなかったと考えている。
一方でこちらの基本データに関しては事務局の方で保有しているため、委員からあったとおり必要な部分はクロス集計を行い、この中で使える項目を活用したいと考えている。

会長 それでは議題2の について質問はないか。
では について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 事務局より説明

【議題2】 第2次経済戦略プラン策定に向けた現状把握と課題
第2次プラン（案）の骨子及び現状と課題

会長

二つ説明があり、一つ目は第2次経済戦略プランの構成についてである。どういったかたちでこのプランをまとめていくかという話があった。二つ目が第2次経済戦略プラン（素案）の説明であった。事務局の素案を説明してもらい、どういったプランにしたいかどういった施策を展開するかについては、これから検討する内容になっており、戸田市の現状を分析して課題を洗い出すというところまで行うということである。かなり内容が豊富であったため、内容の確認等も含め、意見や質問等はあるか。
大きな問題としては、人手不足の話が何度も出てきている。今回のデータを見ると、ある程度ポイントが絞られるのではないかという印象を持った。全体として働いている人の数は増加傾向であり、必ずしも従業者数が減っているわけではないが、特定の業種、職種、産業において、特に人が採用できない、集まらないという状況のようであるため、そのポイントが理解することができたならば、もう少しその点を特定していき、具体的な対策を考えていくことができるのではないか。
そして、前回のプランではクロス集計をやっていた。今回もクロス集計を行うと、もう少しアンケート同士の関連が見えてくると思う。

委員

経済戦略プランの素案の21ページの「既存支援施策の有効性と充実してほしい支援施策」で、公的資格等を取得補助事業というものが1番となっているが、これについては経済戦略プランの施策の中に載っているのであるか。

事務局

現行のプランの中では、施策のNo.1「従業員等のスキルアップ」というところの指標である。

委員

これ自体は法的な資格であるため、フォークリフト等であるか。そのような資格を取得する際の補助金については、評価が高かったということであるか。

事務局

そうである。事業者を活用していただいている。

委員

それでも今のところは実績16件ということであるか。

事務局

そうである。

委員

この価格はいくらで、どのように補助が行われるのか。

事務局

1件あたり上限5万円である。受験費用を補助するものである。

委員

受験費用で最大5万円ということであるか。
今の支援策について、これは掲げてアンケートをとったということであるか。

事務局

そうである。「現在市で行っている事業」、「プランに掲載されているものの」、「プランに掲載されていないもの」もあるが、市で行っている事業を挙げている。

委員

まず戸田市の支援策が普及されているかいないかといった問題で気がついたことである。補助金等が直接的なメリットになるものが「とてもある」、「ない」という判断となるものについて、これだけ多くのセミナー等さまざまな普及事業を行っているということも知ってもらいたいということは思った。そして充実してほしい支援策、有効性ということであるため、とてもよいと思うが、なんとなくではあるが実際採用に直接的につながる支援施策が少ないのではないかと改めて思った。有効性としては公的資格の補助事業があるのは、データで出ているため間違いではないであろうが、もう少し幅広いものが必要であるということに改めて感じた。

会長

他にあるか。

委員	これは例えばの話であるが、経済戦略プラン（素案）の20ページ、ここだけではないのであるが、この「n数（サンプル数）」や「年齢」等は現在把握できているのであるが。年齢も重要であり、このアンケートはまだ何も言えないのであるが、例えば年齢や採用条件が合わないという回答が26%いる。ここでn数と年齢がわからないと、おそらく何もここからは出てこない。例えば一番棒グラフが長い、先ほど「条件を満たす人材の募集がない」というものと、「希望する条件がない」というものが、マッチしているからそういう傾向があるのではないかと言えないかと少し思っており、n数と年齢等、特にハローワークのデータは年齢が偏っているのではないかという気もするため、この辺りは少し精査が必要ではないかと思った。
委員	事業規模もほしい。
委員	この中で課題は明確であると思う。人材確保であると思っている。それに対する有効な市の施策がないため、期待する施策に特にないと言っているのであり、そこをなんとかしなければいけないと考えている。さまざまなことを多く行うのではなく、少し絞り、どこかに予算をしっかりと投入してはどうかと思っている。特に人材確保である。効果がないと言っているのであるから、効果のあるやり方を選んで行ってはどうかと思っている。特に人材確保にお金がかかると言っているのであるから、そういうところに補助金を出す等、他でやっていないことやるべきであると思う。
委員	宣伝になるが、オレンジキューブで採用に関してさまざまなLINEを使った採用のプロジェクトというか、そういったものを受注している企業もいるため、採用を支援している事業所に支援する等、そういったこともありではないか。戸田市の事業者であるため、より事業に合わせた支援ができる可能性がある。情報の一つとしてお伝えする。
委員	第2次経済戦略プラン（素案）の11ページに人口の動態が出ているが、県南部の傾向として、埼玉県全体でやや人口が少し伸びている。全体では伸びているが、内訳を見ると日本人は減っているのである。日本人が減ったところを外国人が補っている人たちである。トータルでいくと増えているが、要は外国人が増えているため結果的に増えているという話であった。おそらく戸田市も同じような傾向があるのではないかと思う。県南部でいわゆる在留外国人が最も多いのが川口市、割合で最も多いのが蕨市でほぼ住民の1割が外国人という傾向がある。おそらく戸田市もかなり外国人が増えてきていると思う。商工会の会長がコンビニの経営者であるが、先日、従業員のかなりの数、かなりの割合が外国人であり、外国人の問題が非常に大きいという話をしていた。 先ほどのアンケートを見ても、課題は人材育成ということもあり、特に技術が足りないという話であった。外国人も単純労働者から徐々に定住者にもなり、そして我々が訪問するような企業をみていると中小企業においては、技術者も外国人が増えてきているという感覚がある。 また今日オンライン参加の委員で、おそらく企業経営者の方も、特にIT技術者のようなところはかなりの数外国人の人材が入っている。 そういった中で、この資料では外国人という言葉はどこにも出てこないのである。おそらく人材という面でも外国人の役割というのは今後おそらく重要になってくる部分があるため、その辺りの認識を現状の中に入れたほうがよいのではないかと思う。

委員 経済戦略プランの埼玉県版というものを県でも作っており、今の計画を検索すると、残念ながら外国人という言葉は2か所ほどしか出てこないのである。一つはいわゆるインバウンドである。外国人観光客を誘致しましょう、増やしましょうという項目に出てくる。もう一つが外国人人材育成の中に、外国人の雇用を検討する企業への支援というのがワンパラグラフ出てくる。そこだけである。おそらく戸田市の計画を作る場合においても、ここまでは非常にうまくまとまっていると思うが、やはり県南部の特徴として、外国人のことは書く必要があるのかなと思っている。以上である。

会長 他に何かあるか。

事務局 今回の戦略プランは粗い素案ではあるが、ページ数の関係もあり内容を絞ったものを提出している。次回の会議に向けて、そういった外国人の構成データ等を用意した上で、こういったデータを掲載していくのか、施策の中では検討する必要があると認識しているが、現状の課題のパートに関しては、今回記載した中では観光の効果、地域の魅力発信というところも含めることができなかったため、一部抜粋となってしまっているのであるが、その中でも取捨選択を行い、どれを掲載していくかということも含め、他のデータ等も用意し意見をもらいたい。

会長 まだ時間はあるため、意見等あれば遠慮なく出してほしい。

委員 質問である。これには前回話をしていた事業承継の際の専門家の派遣は入ってこないのか。

事務局 当該施策の検討は次回以降を予定しており、次回市長へご提出いただいた提言書への回答もあるため、その回答も踏まえながら審議を行いたい考えである。

会長 であれば今回は第2次経済戦略プランの前半部分を検討する会議であり、次回に施策を検討するということであるか。

事務局 今回、第2次経済戦略プランで目指すビジョンと基本方針、方向性の決定というところまで進めたいと考えている。
現状と課題として本日説明した内容と、あと他に肉付けしていく内容等があれば意見をいただきたい。さまざま意見をいただいたところであるが、それを踏まえて今後の第2次プランの目指すビジョン、基本方針を決定した上で、今回既存、現行プランの中でできれば、第2次経済戦略プランに継続しない施策を議題3の最後に示しているため、その部分も進めていければと思う。
次回以降、審議いただき、施策や新たに提言書の内容を基にした施策案を検討していただく流れと考えている。

会長 それでは議題3 第2次経済戦略プラン（案）の基本方針と施策について、事務局から説明をお願いします。

事務局 事務局より説明

【議題 3】 第2次経済戦略プラン（案）の基本方針と施策

会長 議題3について説明があった。
第2次経済戦略プランを全体としてどういう目標を設定して策定していくかという基本方針を今回検討するのが1つ目である。
2つ目として、従来の施策数が48とかなり多かったため事業数を整理したいということで、事務局の提案としては、資料1の15ページにある12の施策をプランから除いて36にするということによろしいか。

事務局 最終的な施策数は、次回以降検討していただきたい。可能であれば減らしたいという気持ちはあるが、何か追加があった場合、必要に応じた数になるかと思う。

会長	施策は廃止するわけではなく、プランから除くということであるか。 それを今回と次回会議で検討するということであるか。次回以降、新規の事業、施策を検討するという手順になる。 議題3に関して意見や質問はあるか。
委員	各委員から話があった通り、方向性は、いわゆる人手不足や事業承継の問題を含めてということではよいと思う。細かい話であるが、基本方針施策案と既存事業の整理で、「新たな価値の創造の担い手作り」という部分について事務局に質問である。「起業創業支援の充実」、これは雇用創出の観点から当然必要であると推察できる。 二番目に、「イノベーションの創出」ということで、スタートアップ・イノベーションへの支援についてである。 まさに今世間で一般的に、実は我々の業界も巻き込まれている理由に、オープンイノベーションをどう推進し、既存事業を拡大していくのかという課題がある。どのように支援を行っていくのか。 ご存じの方も多いと思うが、埼玉県では今年7月に「渋沢MIX」というイノベーション創出拠点が設置される予定である。県では、既存のスモールビジネスは創業・ベンチャー支援センター埼玉で支援を行い、いわゆるスタートアップ・イノベーションについては渋沢MIXで行うことで、明確に分けながら、従来の創業支援も手厚く県として支援していくようである。戸田市としては、スタートアップについての認識を確認しておいたほうがよいと思ったため質問したい。
事務局	市として、特にスタートアップの部分を渋沢MIXや埼玉県産業振興公社のほうで、というようなやり方で分けているわけではない。ただ市の役割は、市内の起業を促進するということで、公社であったりオレンジキューブ（戸田市商工会起業支援センター）と連携しながら行っていくというスタンスでいる。特に、県のようなかたちで分けて行っていくよりは、小さい区分でもより利用しやすいような環境を支援していくというようなスタンスである。
委員	スタートアップに関する支援を市として行っていくという認識でよいか。おそらく委員の中でも既存のビジネスに存在しない会社もあり、まさにスタートアップ企業であると思う。確認として、明記はされていないがそこを分け隔てせず、この中に含んで支援していくという認識があるということではよいか。
事務局	対象として支援をしていきたいと思っている。
委員	この議題の部分はその方向性であったりという議論であると思うため、先ほど説明いただいた内容の方向性であったり、ある程度項目を絞ってという部分については、ぜひその方向で進めてほしいと思っている。 ここまでこの会議の中でせっかく議論した大きな2つのテーマである。次回以降、人材の部分であったり事業承継という部分を、ぜひ今後も盛り込んだかたちで今後の施策案の検討で議論をできるように進めてほしいと考えている。
会長	現行のプランで扱っている施策数が48ということで、1つの会議で運営して評価する項目数としてはやや過大ではないかという印象である。効果的な施策の実施ということを見ると、もう少し重点的な取り組みを決めて絞っていくのがよいのではないかと思う。その上で、評価方法がKPIでよいのかということについては疑問に感じている。量的な評価だけで政策の改善を行い、よりよい運営、ターゲットを見つけ実施していくということが本当にできるのかやや心配な部分があるため、評価方法ももう少し定性的な評価も含め、検討できるとよいのではないかと考える。
会長	議題は終了したが、事務局から何かあるか。

事務局	説明【戸田市ビジネス交流会について/ふるさと納税返礼品事業者勉強会について】
会長	その他、ご意見やご質問等、何かあるか。特にないようなので、本日の議題は終了とする。
事務局	貴重なご意見をいただきありがとうございました。本日予定していた議事等は以上となる。 閉会あいさつ